

2024年7月29日

プラスオートメーション株式会社

報道各位

**物流領域のデジタルサービスプロバイダー18社が「物流DX会議」を開催**

共通インターフェース構築で物流の社会最適を目指すプラットフォームを形成

物流ロボティクスサービス「RaaS」(Robotics as a Service)を展開するプラスオートメーション株式会社(所在地:東京都江東区、代表取締役:山田 章吾、以下「+A」)は、8月23日(金)の10時より、物流デジタルサービスプロバイダー18社による共催セミナー「物流DX会議」を開催します。2023年8月24日に実施した「物流DX会議」の第2回であり、物流2024年問題の解決のため6社が手を取った前回から1年、参加企業数は3倍の規模に拡大し、特別ゲストも迎えて更に白熱した議論をお届けする予定です。

**■物流DX会議を開催する背景と概要**

荷主(発荷主・着荷主)と物流事業者(3PL、倉庫会社、運送事業者)が連携してモノを運ぶ物流業界では、限られた物流リソース(車・倉庫・人)を社会全体で最大活用することが肝要です。しかし、各工程で個別のデジタルサービスが複数存在し、上流と下流の情報伝達をアナログに頼ることもまだ多い現状においては、最大活用のための連携も限定的であるのが実態です。

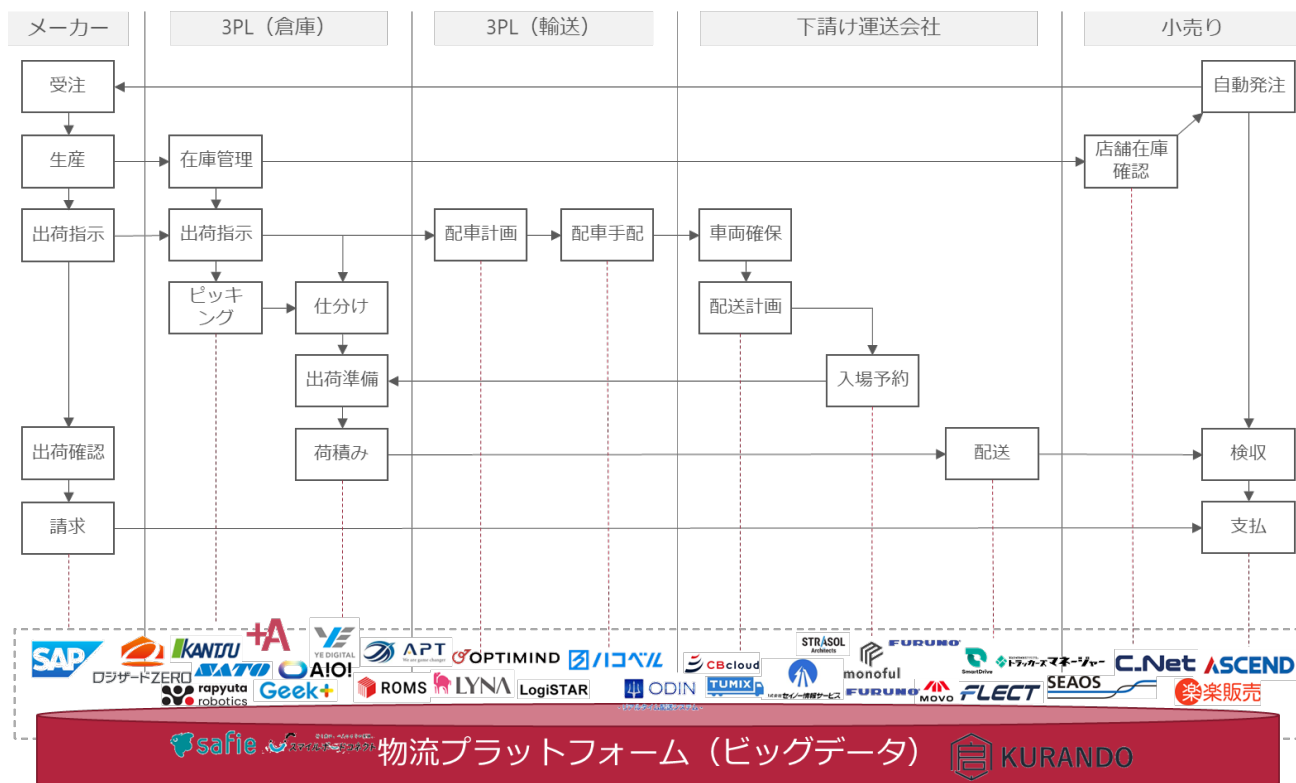
2024年4月から3か月が経過し、人手不足をはじめとする様々な課題解決のための対策も待たなしの状況の中、各デジタルサービス同士の競争やユーザー側のシステム選択の自由を担保しながら、各工程のシステムが“つながる”ための取り組みが必要とされています。

前回はその取り組みの第一歩として、現状の個別最適（※個社単一拠点・単一工程のデジタル化）の限界と、各システムがつながった未来のビジョンを語る、という“総論”がパネルディスカッションで語られました。今回は“各論”として、複数のシステム間で実際に連携した事例を、ユーザー企業の声とともにお届けします。前回に続き、LOGISTICS TODAYの赤澤編集長がメインモデレータを務めます。

今後ますます佳境に入ってゆく物流危機への対策として、デジタル化は避けられないことは明白です。更に物流領域の根本課題を解決するには、デジタルサービスの提供者側が「協調領域」としてシステム間の連携を担保し、誰でも社会の物流リソースにアクセス可能なプラットフォームを形成することが不可欠です。そのためには、より多くのデジタルサービスプロバイダーやユーザー企業（荷主企業・物流事業者）、官公庁や業界団体などの参画が必要です。

是非このイベントをご視聴いただき、次回以降のご参画をご検討いただければ幸いです。

### ＜各システムが“つながる”ことで実現できる物流プラットフォームのイメージ＞



### 【イベント概要】

- 開催日時：2024年8月23日（金）10時～17時30分
- 形式：オンライン（Youtube 配信）
- 参加費：無料
- 定員：800人（事前申込必須）
- 申込期限：2024年8月22日（木）17時（※アーカイブ視聴も事前申込必須）
- 申込ページ：<https://www.logi-today.com/635873>

## ■ 物流ロボティクスサービス「RaaS」について

+A が提供する「RaaS」は、ロボットのサブスクリプションサービスです。

お客様のご要望に沿ってフルカスタムで提供する「カスタマイズプラン」と、+A の自動化実績をパッケージ化したクラウド型ローコストプラン「RaaS 2.0」の 2 種類で展開中。

---

<プラスオートメーション株式会社について <https://plus-automation.com>>

+Automation は、テクノロジーと物流を融合させ、物流現場にさまざまな“+A”を届けるために生まれた会社です。“+A”には、業務の効率化だけでなく、その先にあるやり甲斐や、よろこびなどの“+α”も込めています。

+A は「倉庫の自動化をもっと身近に、簡単に。」をサービスコンセプトに、サブスクリプション型の物流 RaaS (Robotics as a Service) を提供するリーディングカンパニーです。あらゆるテクノロジーを活用し、これまでになかったサービスを物流に携わるすべての人と共に創っていきます。

本件に関する問い合わせ先：プラスオートメーション

担当：田口 智士

問い合わせ先：[https://hubs.ly/Q01\\_B2S70](https://hubs.ly/Q01_B2S70)

